

## ■みたか若者事業部（事業計画）

相談窓口につながり、スタッフとの関係構築を経て居場所に参加する若者の多くは、さまざまな出会いと気づきによって関心を外の世界へと広げてきています。昨年度は、主に3自治体にまたがる居場所に参加している若者たちが出会い、学び合いました。今年度は、現状のプログラムを精査し、より豊かな出会いと、自分なりの生き方・働き方を学ぶことのできる機会をつくり出していきます。

また、仕事への移行を支える仕組み、いわゆる中間的就労のモデルづくりについては、未だ多くの課題が残されています。つまり、若者が働き方・生き方を学びながら職場へと参加していく教育と労働が重なる仕組みと、その間の生活を支える福祉的な仕組みの構築をどのように実現していくかということです。風のすみか、そして DTP Youth Lab（DTP ユースラボ）での多様な働き方モデルづくりの蓄積と、中小企業家団体やサポーターの方々との連携を中心とした中間的就労の実践の波及をすすめ、その成果を広く発信することが求められています。

取り組みの作品化、そして発信を意識することで、未だ社会との接点が見出せない若者との出会いを生み出していくとともに、より多くの方々の理解と支援を得ていきたいと思えます。本年度は、全国若者・ひきこもり支援者協同実践交流集会在東京で実施さ

### 1. 居場所での出会いと学び合いづくり

#### ①入り口機能の検証と実践

居場所への入り口機能を果たしているプログラムをより充実させていく。

また、10代後半や女性が参加しやすいプログラムの拡充も課題となっている。

#### ②活動の広がり（社会化）の追及

就労後も居場所につながり、生き方・働き方を模索している若者たちとともに学ぶ場をつくる。

また、地域や企業の方々との出会いの場づくりも追及する。

### 2. 中間的就労システムモデルの構築

#### ①職場体験以降の生活保障も含めた就労への移行システムの検証と具体化

#### ②一般企業でも使える汎化モデルの研究と波及

### 3. 取り組みの周知と地元のネットワーク構築

#### ①活動の作品化

#### ②報告イベントの実施（10月、3月）

#### ③活動発信のため、facebookおよび「みたか地域若者通信」の作製・活用

#### ④近隣地域のサポーターや企業家との出会いの場の構築

## ■ 練馬事業部（事業計画）

平成28年度も、引き続き「子どもから若者まで切れ目のない支援を」をモットーに、教育行政や福祉行政などとの垣根を越えた連携を目指す一年とする。練馬事業部は、これまで積み上げてきた行政とのパートナーシップを足場に、「(1)子どもたちの発達保障」「(2)若者の学びなおしと就労支援」をも含めた生涯教育・社会教育の場や機会を創出していく。生活困窮世帯の子ども問題も、若者の就労問題も地続きの問題であるため、スタッフが一丸となって問題に立ち向かっていく。そしてさらに行政の職員や地域の人々など地域コミュニティとも協同した子ども・若者支援の実現のためのひとつの流れをつくる一年とする。

### ■ 活動目標

#### (1) 行政との連携

- ・ 行政とのより深いパートナーシップの構築（生活困窮支援・サポステ）
- ・ 行政と協同した新たな展開を目指して（サポステ）

#### (2) 地域との協同的取組の実施

- ・ 地域イベントへの参加および若者の出番の創出（生活困窮支援・ポステ）
- ・ インターンシップネットワークの構築（サポステ）

#### (3) 学校連携

- ・ 小・中・高校との連携した子ども・若者支援の実現（生活困窮支援）
- ・ 都立高校でのキャリア授業（サポステ）

#### (4) その他

- ・ 他事業者（NPOや学習塾）との協同的パートナーシップの構築（中3勉強会）
- ・ 居場所利用者の増加（大泉風のアンサンブル・光が丘ぱれっと）



## ■世田谷事業部（次年度計画）

H28年度の野毛青少年交流センターは、本館における新しい宿泊事業のスタート、別館の本格活用のスタート年であることを踏まえ、H27年度の活動を発展的に組み替えていくことを考えている。具体的には、4つの事業「①居場所づくりプロジェクト（本館）②のげ青カフェ・ココイルプロジェクト（旧リーダールーム）③フューチャーハブ立ち上げプロジェクト（別館）④宿泊事業（本館）」を柱として展開していくことを想定している。

### ■プロジェクト等運營業務

#### 1. 居場所づくりプロジェクト

【対象】：大学生年代の若者

【内容】：基本的にH27年度のプロジェクトを継続

- ・ 「大学生世代居場所サポーター（通称ガクボラ）」が小中高生世代の集まるフリースペースを運営する。
- ・ 日常の中でうまれるちょっとした「やりたい！」を一緒になって考え、実現することを通じて、大学生世代の若者たち自身の社会参加への学びの機会をつくり出す。
- ・ 各種イベントの開催
- ・ のげ青フェスティバルの開催
- ・ 「のげ青トライアングル」の実施

#### 2. フューチャーハブ立ち上げプロジェクト

【対象】：若者全般（社会参加のきっかけの少なかった若者・大学生世代の若者）

【内容】：現在「野毛図書室」のある別館2Fを、若者向け図書、ミーティングスペース等に改修し「なにか楽しいことがしたい！」「なにか意味あることがしたい！」等の若者たちの思いを交流し、つなぎ、形にすることのできる「時代と若者・若者と若者の交流ハブ」＝「のげ青フューチャーハブ」へと創り変えていく

#### 3. のげ青カフェ・ココイルプロジェクト

【対象】：若者総合支援センターを利用者を中心とした若者

【内容】：H27年度のプロジェクトを発展的に継続

- ・ 管理人室等を改修し、若者、地域住民の交流や活動の場として活用できるカフェスペースを創る
- ・ 若者の中間的就労の場として運営し、フューチャーハブ内のブックカフェと連携する等、多様な「しごと体験」を提供する。
- ・ 改装の中心はスタッフが行うが、H27年度2月開催の「のげ青トライアングル」にて、本プロジェクトに賛同する若者を募集することも想定している。

#### 4. 宿泊業務の本格的再開

【対象】：地域の青少年団体および支援団体

【内容】：宿泊業務の運営および宿泊プログラムの企画運営

- ・ 年間最大80回の宿泊の受け入れ業務（予約、事前説明等の実施）
- ・ のげ青の利用者発案の宿泊プログラムおよび、野毛青少年交流センターとしての宿泊プログラムの実施（最低年間3回ぐらいを想定）

## ■ 社会的事業部（事業計画）

「風のすみか」では、昨年に引き続き、パンの充実を図り、売り上げ増加を目指していきます。価格の見直しと売れるパン作りと売り方の追及をしていきたいと思っています。新作や、工房店舗の改善案が出やすい環境を作り、工房スタッフ、店舗スタッフ、研修生がチームとなってよりよい働き方、職場づくりへの追及をしていきます。また、中間的就労のモデルづくりにむけて、現プログラムの枠（6か月期間限定で研修生に経済保証がない）の困難性を感じ、研修の質の向上と、成果の発信、経済的基盤構築も含めた研修システムモデルの構築をすすめていきたいと思っています。

- 1、 より美味しいパンを目指して
  - ① さらに国産パンの充実で売り上げ増加を狙う。毎月、対前年度を見据えていく。
  - ② 毎週1回の工房ミーティングを確保し、新作パンや、工房店舗の改善点を出し合える環境を整える
- 2、 魅力的な店舗づくりを目指して
  - ① 研修生、OBによるオープンカフェの充実
  - ② お店づくりの充実を図る 売り上げ向上のための工夫（店舗スタッフを固定化）
- 3、 地域や団体内の事業部との関わりを強化していく
  - ① 武蔵野市イベントへの参加
  - ② 他の事業部とのパンを通じたイベントを企画する
- 4、 中間的就労のモデルづくりに向けて
  - ① 研修内容の質の向上と成果の発信（OB会）
  - ② 経済的基盤構築も含めた研修システムモデルの構築

今年度の風のすみか農場は、これまでの経験を活かし農産物の増収を図り、若者の学びの場としての機能や、近隣の人々が集まれるための場作りなど、若者の中間就労の場としての事業作りに取り組んでいきます。まだまだ畑の土が脆弱な場所へ施肥や耕運などで土づくりを行ない、農業に付随する若者の場作りや、観光農業の場作りなど、増収に伴う可能性を1つずつ実施していく1年にしていきます。

コンセプトは人の集まる農場を、若者と共に創造する

1. 農産物の生産と販売
2. 地域直売所の運営
3. 若者の研修制度、集中訓練プログラムの実施
4. 新たな市民提案型の協働事業（相模原市 今年度から）の実施
5. すみか倶楽部の運営
6. 6次産業化（ジャム・漬物）へ向けた加工品生産と販売